



ハトダヨ
2018年
9月号

函
館
市
中
央
図
書
館

編集・発行 函館市中央図書館 指定管理者 TRC 函館グループ

〒040-0001 北海道函館市五稜郭町 26 番 1 号

TEL (0138) 35-5500 FAX (0138) 35-5525

市 中 央 図 書 館 だ よ り

第29号 平成30年9月1日 発行

予約ランキング

図書館でたくさん予約が入っている本は何か、みなさんにご存知でしょうか。
ランキングを参考に読みたい本を探すのも一つの方法です。

ご予約は図書館の窓口、またはインターネットからどうぞ。

＼平成30年8月2日現在、予約回数の多かった本をご案内しています／



- | | | | |
|---------------|----------|----------------|----------|
| 1 魔力の胎動 | 東野 圭吾／著 | 11 路上のX | 桐野 夏生／著 |
| 2 未来 | 湊 かなえ／著 | 12 おまじない | 西 加奈子／著 |
| 3 かがみの孤城 | 辻村 深月／著 | 13 カットバック | 今野 敏／著 |
| 4 棲月 | 今野 敏／著 | 14 ロンリネス | 桐野 夏生／著 |
| 5 盤上の向日葵 | 柚月 裕子／著 | 15 屍人荘の殺人 | 今村 昌弘／著 |
| 6 あやかし草紙 | 宮部 みゆき／著 | 16 ののはな通信 | 三浦 しをん／著 |
| 7 おらおらでひとりいぐも | 若竹 千佐子／著 | 17 ラプラスの魔女 | 東野 圭吾／著 |
| 8 ファーストラヴ | 島本 理生／著 | 18 オンナの奥義 | 阿川 佐和子／著 |
| 9 大家さんと僕 | 矢部 太郎／著 | 19 凶犬の眼 | 柚月 裕子／著 |
| 10 青くて痛くて脆い | 住野 よる／著 | 20 悪徳の輪舞曲(ロンド) | 中山 七里／著 |

イベント告知

第5回 郷土の歴史講座 北海道150年・E.S. モース来道140年記念 講演会

日時：平成30年9月29日（土）

14時00分～16時00分

場所：函館市中央図書館視聴覚ホール

定員：150名（申込不要・先着順）

お問合せ：函館市中央図書館 TEL 0138-35-5500

E.S. モース（1838年～1925年）：アメリカの動物学者。

大森貝塚を発見し、ダーウィンの『進化論』を初めて日本に伝えた。自然科学の調査・研究のため函館も訪れている。

回廊展示紹介

「モースと函館 北海道展」期間：9月29日（土）～10月9日（火）

場所：函館市中央図書館 展示ホール

お問合せ：市立函館博物館 TEL 0138-23-5480

入場無料

ハトダヨにしか
載っていない！

ぜひ読んでみてください！

スタッフのおすすめ本

タイトル：「失敗図鑑」

棚：J16～J19
請求記号：280 シ

絵：mugny 編著：いろは出版 出版社：いろは出版（2018年3月）

失敗のひとつやふたつは誰にでもあるもの。あの偉人達だって実はいろいろな失敗をしていました。発明家や実業家、スポーツ選手だって…。

失敗から生まれたお菓子「柿の種」のエピソードや、大相撲でまわしが取れて反則負けになったけれどギネスに載っちゃった出来事など。

「失敗は成功のもと」といいますがそんなことわざが納得の一冊です。

タイトル：「ぼぎわんが、来る」

棚：A25～A30
請求記号：F ㍷

著者：澤村 伊智 出版社：KADOKAWA（2015年10月）

誰にも教えていない、まだ生まれる前の我が子の名を会社の後輩に伝言した謎の人物。それが来たら、絶対に答えたり、入れたりしてはいけない…。

「ぼぎわん」と呼ばれるそれは一体何なのか。「日本ホラー小説大賞」大賞を受賞した作品で、今年の冬には「来る」というタイトルで実写映画化の予定のホラー小説です。

まだ残暑が続くこの時期、背筋をゾクゾクさせてみませんか？

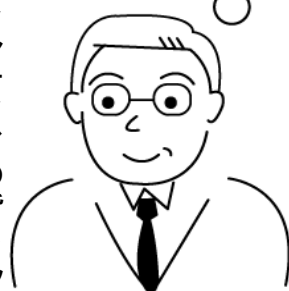
タイトル：「おりがみ四季折々」

棚：A19～A21
請求記号：754.9 ㍿

著者：布施 知子 出版社：日本放送出版協会（2008年6月）

おりがみ遊びをしていたのは、いつの頃でしょう。折り鶴、やっこさん、ピアノ、お家、カメラなど、懐かしい限りです。表紙のりすの折り紙のかわいらしさにひかれて手に取ったこの本、季節ごとの構成になっていまして、これからの季節ですとお月見のウサギ、ダリア、カキの実、いちょうなどが紹介されています。久しぶりに折るおりがみは意外と難しく、指先と頭のいいトレーニングになりました。大人向けのおりがみの本は出来上がりが素敵なものが多いので、色々とチャレンジしてみたいかなと思います。

館長随想（二十九）



函館の図書館では、現在約百五十名のボランティアの皆さんが十九のサークルを作って、おはなし会を行っています。月に一回ですが、図書館員のおはなし会もやっています。昨年度は三百六十六回おはなし会が開催され、五千百七十六人が聞きに来てくれました。中央図書館では日曜日以外は毎日開催されていますし、この他に夏休みなどには特別なおはなし会も催しています。

函館では当たり前になっていることですが、全国の図書館の中でこれだけの回数おはなし会が開催されているのは珍しいことです。ほとんどの図書館では週二、三回、週一回というところも少なくありません。中にはおはなし会をしていない図書館もあります。ですから、函館のこともたちは恵まれていると私は思っています。

これだけいるボランティアさんですが、体の調子、家庭の事情で辞められる方もいますから、新しい方の参加がなければ減っていきます。読み聞かせに関心を持っていただくために、図書館では毎年「初心者のための読み聞かせ講座」を開催しています。

今年は四十年前に自宅に文庫を開き、こどもたちに読み聞かせを続けてきた石狩市の駒井秀子さんにお越しいただいて、『函館・東京・石狩く行き当たりバッタリ、おはなしおばさんの40年く図書館が無い、本屋も無い、それじゃ文庫でしょ』と題した講演会を、九月十一日（火）午後一時半～三時まで中央図書館二階大研修室にて行います。入場無料で定員は先着五十名まで。当日、直接会場までお越しください。

函館出身で、石狩で活動する駒井さんの楽しい体験談を聞いて、自分もやってみたいと思われた方は、お気軽に図書館に問い合わせてください。

デジタル資料館 紹介



銭亀沢のコンブ干し (ph004748)

昆布漁が解禁になると、現在も早朝に操業開始を知らせる放送や良漁場を探す漁船の群れ、一家総出の昆布干しなど漁師町ならではの風景を見ることができます。

デジタル資料館では細かい部分を拡大して閲覧することもできます。ぜひご利用ください。



特集・縄文時代を知る本

市内の「大船遺跡」「垣ノ島遺跡」を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、世界文化遺産の国内推薦候補に選定されました。今後益々、盛り上がりを見せるであろう「縄文時代」のあれこれを、今のうちにもっと知っておくというのはいかがでしょうか？

今回は、近年発行された縄文時代関連の注目の書籍をご紹介します。

タイトル：『縄文土器・土偶』 著者：井口直司

出版者：KADOKAWA 2018年6月（棚：A1～3 請求記号：B210.25 イク）

文庫サイズながらカラー図版が豊富です。縄文時代の主要な作品を網羅した土器・土偶の入門書。何といたしても今年出版されたばかりの本ですので、最新の研究成果に触れたい方は是非この一冊。

タイトル：『縄文人からの伝言』 著者：岡村道雄

出版者：集英社 2014年7月（棚：A31 請求記号：S210.25 オカ ）

著者は「三内丸山遺跡」の発掘調査にも関わっていたという研究者ですが、とうとう杉並区で“縄文的な生活の実践”を始めてしまったそうです。

そんな著者独自の、「弥生ではなく縄文こそが現代日本の生活に連続性がある」との主張の全貌とは？



タイトル：『につぼん全国土偶手帖』 著者：譽田亜紀子

出版者：世界文化社 2015年7月（棚：A4～6 請求記号：210.25 コン ）

今やどの分野にも、“ゆるい”本は存在するのでしょうか。「土偶女子」として著作を世に送り続ける著者による土偶のキャラ付け、特色（ツツコミどころ？）をユーモラスに紹介した解説書。土偶の展示・所蔵施設や土偶関連のお土産といった真面目な情報も載っています。まさに土偶ファンのための一冊と言えるでしょう。

タイトル：『縄文の思想』 著者：瀬川拓郎

出版者：講談社 2017年11月（棚：A31 請求記号：S210.25 セカ ）

アイヌ研究者による、日本列島周縁の海民、アイヌ、南島の人びとの習俗や世界観に姿をとどめる「縄文の思想」をダイナミックに探求した一冊。北海道への言及も多いです。

